

記入日（西暦）2025 年 1 月 16 日

一般社団法人日本医療薬学会 学術委員会委員長 殿

医療薬学学術小委員会 研究活動報告書 （継続）

1. 小委員会名、研究テーマ

小委員会名	2023 年度医療薬学学術第 1 小委員会
研究テーマ	電子添付文書および添文ナビの利活用実態と、その普及に向けた調査研究

2. 小委員会の委員長、構成委員

委員長	フリガナ	アオモリ トオル
	氏 名	青森 達
	所属施設の名称 (正式名称)	高崎健康福祉大学

構成委員	氏 名	所 属	次年度
	大谷 壽一	慶應義塾大学病院	継続
	津田 壮一郎	慶應義塾大学病院	継続
	中田 英夫	慶應義塾大学病院	継続
	清宮 啓介	慶應義塾大学薬学部	継続
	荒木 拓也	群馬大学医学部附属病院	継続
	伊藤 護之	埼玉医科大学病院	継続
	赤嶺 美奈	和同会薬局	継続
	島田 淳史	スエヤス調剤薬局	継続
	坂口 眞弓	みどり薬局	継続
	田中 みずき	みどり薬局	継続

3. 研究の目的

添文ナビは、医薬品等の PTP シートや容器等に表示された GS1 バーコードをスマートフォン等のモバイル端末で読み取ることにより、電子添文、インタビューフォーム、RMP など PMDA で公開している医薬品情報を閲覧することができるアプリケーションである。医療関係者はこれまでよりも速やか、かつ場所を選ばずに最新の添付文書にアクセスすることができるが、その導入の効果を評価した報告はない。 本研究では本アプリ導入前後における医薬品情報へのアクセスに関する質的・量的変化、および添文ナビや電子添付文書の有用性や課題に関し調査する。 本研究の目的は添文ナビの使用状況や改善すべき点、普及上の課題等を明らかにし、さらに電子添付文書
--

の使いやすいフォーマットを検討することで、今後の利活用の推進につなげることである。

4-1. 研究活動報告（これまでの研究成果と達成度）

これまでの研究成果

オンライン会議の開催

・第1回

日時:2023 年 9 月 26 日(木)18:00~18:15

参加者:赤嶺美奈(和同会薬局)、伊藤護之(埼玉医科大学病院)、坂口眞弓、田中みずき(みどり薬局)、清宮啓介、(慶應義塾大学)、青森 達(高崎健康福祉大学)

議題:1. 各施設倫理委員会からの実施許可について

各施設における実施許可の所得状況を報告していただき、いずれも調査を開始可能であることを確認した。

2. 1 次調査の実施について

1 次調査の調査目的、実施方法、調査期間を確認した。

・第2回

日時:2023 年 9 月 30 日(月)17:00~17:15

参加者:荒木拓也(群馬大学医学部附属病院)、津田壮一郎、中田英夫(慶應義塾大学病院)。青森 達(高崎健康福祉大学)

議題:(参加者の都合に合わせ、第1回と同じ内容を2回に分けて開催した)

1. 各施設倫理委員会からの実施許可について

各施設における実施許可の所得状況を報告していただき、いずれも調査を開始可能であることを確認した。

2. 1 次調査の実施について

1 次調査の調査目的、実施方法、調査期間を確認した。

インタビュー調査用紙の作成と調査の実施

- 2024 年度はインタビュー調査に用いる調査用紙(別添資料①~⑤)を作成した。調査用紙は、施設に対して電子添文の導入状況等を訪ねる「施設向け」と、ユーザーに対して使用感等を尋ねる「ユーザー向け」から構成され、さらに施設向けは「薬局向け(別添資料①)」、「病院向け(別添資料②)」、「介護施設向け(別添資料③)」、ユーザー向けは「薬剤師向け(別添資料④)」、「多職種向け(別添資料⑤)」に細分化して作成した。
- 調査用紙の作成後、研究代表施設である高崎健康福祉大学にて研究倫理委員会に本研究計画を提出し、2024 年 6 月 17 日付で実施許可を取得した。この実施許可をもって慶應義塾大学病院、群馬大学医学部附属病院、埼玉医科大学病院、東京都薬剤師会で実施許可を申請した。
- 各施設において実施許可を取得次第、調査対象者を募集し、1 次調査(インタビュー調査)を実施した。2025 年 1 月時点で、慶應義塾大学病院、埼玉医科大学病院、東京都薬剤師会では調

査が完了した。群馬大学医学部附属病院においては実施許可の取得が遅れたため、調査は未完了である。

研究全体における報告時点での達成度:30%

2 回の調査と結果のまとめにおける各作業段階の、研究全体に対する割合を下記のとおりとしたとき、1 次調査の実施があと1施設残っていることから、本報告時点での達成度を 30%とした。

1 次調査

調査用紙の作成	10%
倫理委員会への申請	5%
調査の実施	20%
調査結果のまとめ	10%

2 次調査

調査用紙の作成	5%
倫理委員会への申請	5%
調査の実施	20%
調査結果のまとめ	10%
結果のまとめ	15%

注) 枠の大きさは必要に応じて修正し、各項目について詳細に記載すること。

4－2. 研究業績（学会発表、論文等）

なし

5. 次年度の活動計画及び到達目標

1. 学術小委員会としての研究活動期間

2025 年 4 月 1 日 ～ 2026 年 3 月 31 日まで 通算 3 年間の 3 年目

- ・ 会議の開催予定回数 4 回

2. 次年度の活動計画及び到達目標

1 次調査の完了次第、2 次調査を実施する。2 次調査では対象となる医療機関を全国に拡大し、アンケートを実施する計画である。一定期間のアンケート調査を実施後、回答を収集し、結果をとりまとめる。

3. その他

6. 共同研究、他学会・団体からの支援（COI 申告を含む）

研究計画書から変更なし

7. 倫理指針、科学者の行動規範、個人情報保護法等への適合状況（倫理審査等の受審及び承認取得状況を含む）

研究計画書から変更なし

8. 研究費支出計画

次年度の研究費支出希望額 _____ 円

費 目	過年度	次年度	全期間
(1)データベースの利用料			
(2)アンケート調査費		400,000	400,000
(3)会場使用料、映像・音響等機材利用料、装飾・案内看板等作成費			
(4)機器等のリース、レンタル費			
(5)印刷、製本費			
(6)通信、運搬費用			
(7)講師謝金、旅費等(本学会旅費、謝金規程の範囲内に限る)			
(8)運営スタッフ雇用費			
(9)支払手数料			
(10)消耗品費	22,572	10,000	10,000
(11)業務委託費			
(12)小委員会活動に直接関連する学会・研修会等への参加費およびそのための旅費			
(13)倫理審査の受審料		30,000	30,000
(14)論文投稿料、掲載料		30,000	30,000
(15)雑費			
合 計	22,572	470,000	492,572

9. 次年度支出計画の内訳

- 次年度に実施予定のアンケート調査費として 400,000 円を計上した。ここには調査対象施設への依頼文の郵送費とパネル会社の利用費を含む。
- アンケート調査の実施に先立ち、研究倫理委員会への申請が必要になる可能性があるため、受審料として 30,000 円を計上した。
- 消耗品費 10,000 円、論文投稿料・掲載料 30,000 円を計上し、合計 470,000 円とした。